

シネラリアについて、5号はち植えの土壌に混入して、かん水回数を減ずることの可否を検討した。奈良農試、兵庫農試は提出済み、今回は東京農試の成績が検討された。慣行かん水に処理を加えた場合効果の認められる区、かん水回数を減じた区で有効（生育量の増加）などと有効と思われる結果が出たが、初年度の試験なので継続となった。

3. キ ク

(1) TD-445（石原産業申請）：継続一試験年次不足

成分未公開（脂肪酸アルコール）70%の乳剤で、生育抑制作用をもつので、キクのわき芽抑制と摘らい効果が試験された。10, 30, 50倍液を株当たり20ml処理するが、処理時期は短日処理開始後2, 4週間目およびその回復処理となっている。前回千葉農試、愛知農総試園研の成績が検討され、今回は残った香川農試の結果が検討された。その結果は提出済み2場所のものと同様であって、摘らい効果は処理量に応じてあらわれるが、同時に葉や頂芽に対する薬害が顕著となる、反対に薬害に注目すると効果が減退するということであった。したがって実用性は疑問とされたが、試験としては初

年度なので継続となっている。

(2) TD-445-C（石原産業申請）：継続一試験年次不足

前出剤の改良剤で、脂肪酸アルコール類55.26%とその他4.74%からなり、15, 30, 50倍として同様に処理された。前剤同様前回の検討会に未提出であった香川農試の成績が検討された。結果は前剤と全く同様であったが、試験としては初年度なので継続と判定された。

4. ボインセチア

(1) B-995（日本曹達申請）：判定の必要なし（剤型変更）

B-ナインの名で知られる生育抑制剤の、ボインセチアに対する試験である。B-995の成分含量を、従来の90%から80%に変更したので、その効力に差あるいは変化があるかどうか検討したものである。福岡園試の成績は提出済みで、変化なく剤型変更可、となっており、今回は残りの鳥取農試西伯分場の成績が検討された。その結果90%剤に比べやや効果はおちるが、処理回数を増すことで十分実用化可という結論であった。したがって剤型の変更可という判定は同様である。

新 登 録 除 草 剤 一 覧

農林省農蚕園芸局植物防疫課

昭和49. 11. 1~50. 2. 28

種 類 名	商 品 名	有効成分の種類 及び含有量	剤 型	適 用 作 物 (場 所)	適用雑草	適 用 地 帯	適 用 土 壌	使用時期	使 用 量 (10a 当り)	使用方法	登録会社
MCP, DCMU, DPA 除草剤	ボミカル DM水和 剤	2,2-ジクロル プロピオン酸 ナトリウム 45.0%	水和 剤	稲 〔水田〕 〔畦畔〕	畑地水田 1年生雑 草及びイ ネ科	全 域	砂壤土 、 塩 土	雑草発生 前~雑草 発生盛期	1kg 10a当り 散布液量	散布機で 雑草及び 地表面が 充分濡れ	石原産業

種 類 名	商 品 名	有効成分の種類 及 び 含 有 量	剤 型	適 用 作 物 (場 所)	適用雑草	適 用 地 帯	適 用 土 壌	使用時期	使用量 (10a 当り)	使用方法	登録会社
つづき		2-メチル-4-クロルフェ ノキシ酢酸ナ トリウム-水 化物 15.0% 3-(3,4-ジ クロルフェニ ル)-1,1-ジ メチルウレ ア 25.0%			セリ科等 多年生雑 草				100~ 150ℓ	るよう に散 布す る	
MCPB, シメトリン, モリネート 除草剤	ヤシママ メット S M粒剤	2-メチル-4- クロルフェ ノキシ酢酸エ チル 0.80% 2-メチルチオ -4,6-ビス -エチルアミ ノ-S-トリ アジン 1.5% S-エチルヘキ サヒドロ-1 H-アゼピン -1-カーボ チオエート 8.0%	粒 剤	普通移 植水稻	ノビエそ の他水田 1年生雑 草及びマ ツバイ・ ウリカワ・ ホタルイ・ ミズガヤ ツリ・ヘ ラオモダ カ	全域の 普通期 早期栽 培地帯	砂壤土 と 塩 土 減水深 2cm/ 日以下	移植後10 ~20日ノ ビエ35 葉期迄但 し寒地 では移植 後15~20 日ノビエ 25葉期 まで	3~4kg	湛水散布 (茎葉兼 土壌処 理)	八洲化 学工業
				稚苗移 植水稻	ノビエそ の他水田 1年生雑 草及びマ ツバイ・ ウリカワ	関東以 西の普 通期栽 培地帯 (九州・ 南四国 の暖地 を除く) 及び関 東・東 海の早 期栽培 地帯		移植後15 ~20日ノ ビエ35 葉期まで			
				稚苗移 植水稻	ノビエそ の他水田 1年生雑 草及びマ ツバイ・ ヘラオモ ダカ・オ モダカ	東北, 北陸地 域		移植後25 ~30日ノ ビエ35 葉期迄 〔田植前後 の初期除 草剤によ る土壌処 理との体 系で使用〕			

種 類 名	商 品 名	有効成分の種類 及 び 含 有 量	剤 型	適 用 作 物 (場 所)	適用雑草	適 用 地 帯	適 用 土 壌	使用時期	使 用 量 (10a 当り)	使用方法	登録会社
オキサジ アゾン除 草剤	ロンスタ ー水和剤 90	5-ターシャリ -ブチル-3 -(2,4-ジ クロル-5- イソプロポキ シフェニル) 1,3,4-オキ サジアゾリン -2-オン 90.0%	水和 剤	水 稲 〔稚苗 移植〕	ノビエソ の他水田 1年生雑 草及びマ ツバイ	北海道 を除く 全域の 普通期 栽培地 帯	砂壤土 と 埴 土 〔減水深 2cm/ 日以下〕	植代直前 ～植代直 後 〔田植前 1～3日〕	67g 1a当り 散布液量 500cc	湛水散布 土壌混和 処理所定 量を500 cc入りの 散布量ビ ンに入れ 水を注入 して500 ccとなし よく攪拌 し荒代か き後植代 かき前に 土壌に均 一に散布 し混和す る。混和 深は2～ 3cm(混 和時の水 深3～5 cm)尚植 代直後処 理の場合 は植代か き後代か き水がに ごってい る時に均 一に散布 する。(散 布時の水 深3～5 cm)	日産化 学工業 北興化 学工業
テトラビ オン除草 剤	ホドギャ フレノッ ク粒剤4	2,2,3,3-テト ラフルオルブ ロビオン酸ナ トリウム 4.0%	粒 剤	開こん 地, 地 ごしら え地	ススキ			秋冬期～ ススキの 出芽初期	7～ 12kg	全面均一 散布	保土谷 化学工業
				下刈地 (スギ, ヒノキ)	サ サ			秋冬期～ ササの出 芽初期	5～ 10kg		
				下刈地 (トド マツ)	サ サ			秋冬期 (但し土壌 凍結前)	5～ 10kg		